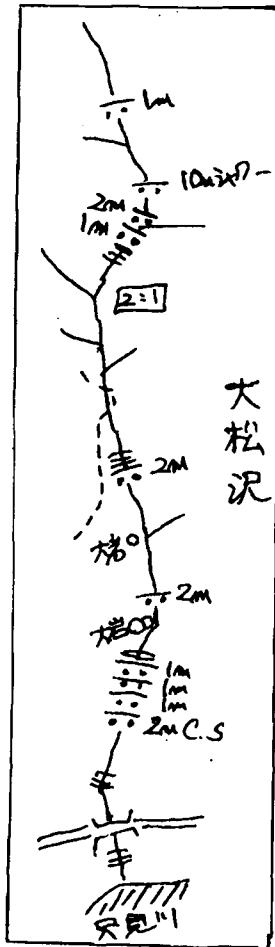


けとしてちょっと登りにくい滝が続くようになる。次の5m滝は築塊岩の滝で、ホールド細かく、シャワーで直登する。続く5m滝にはホールドがない。しかし幸いなことに大きな流木がひっかかっている。木登りの要領で登りきり、左岸の灌木を利用して草付に逃げる。流木がなければちょっとルートが見つからない滝である。このあとの5m滝は、フリクションを目一杯きかして直登する。ここでこの沢の核心部は終了。このあとは中段に土砂が詰まった7m滝と、その上の3m小滝だけで、源頭となってしまった。つめは急な樹林帯の斜面で、源頭の湿地帯から15分程で尾根に出る。
(記・)

[タイム] 出合(6:40)→送電線下(7:15)→源頭(8:25)→尾根(8:40)



大松沢 1991年8月25日

8:50下降開始。5分下ると、細い流れに出る。更に20分下ると10mの滝が出てきた。シャワーでクライミングダウンする。この沢のハイライトはこの滝の下降で、あとは全く平凡な沢の下りとなってしまった。

9:30右手から水量の多い支沢が合流する。ここから右岸に踏跡がみられるようになり、まもなく荒れた林道まで出てきた。よっぽどこで下降終了としようかと思ったのだが、只見川まで何とか下りきってしまおうと、先を急ぐ。

荒れた林道が沢筋から離れてしまい、沢は樹林帯の中を流れるようになる。やがて2mの滝があり、その先はなんだか切れ落ちているようだ。10mクラスの滝がかかっているかと期待したが、大岩が積み重なっているだけで滝はなく、期待は外れてしまった。10:15只見川左岸を走る道路に出て、下降終了とする。
(記・)

[タイム] 下降開始(8:50)→荒れた林道(9:30)→下降終了(10:15)